平成 22 年 8 月 22 日（日）第一回 幼児教育実践学会

幼稚園・小学校連携の第一歩

～教諭および子どもたちの相互訪問・交流を通して分かってきたこと～

国風第三幼稚園

（　愛　知　県　）

〇磯野　おわ　　森　有希子　　佐藤　里美

幼稚園・小学校連携の第一歩

〜 教諭および子どもたちの相互訪問・交流を通して分かってきたこと 〜

国風第三幼稚園（愛知県）
発表者　　〇磯野おわ 園長
森有希子 教諭
佐藤里美 教諭

１　問題の所在と本研究の目的

今回の教育課程の改善（幼稚園教育要領および小・中学校等の学習指導要領の改訂）の根拠となった、平成 20 年の「中央教育審議会答申（H.20.1.17.）」では、「学校段階間の円滑な接続」「発達や学びの連続性を踏まえた幼・小間の円滑な接続」「小学校の教科学習への円滑な接続」「異年齢での教育活動の推進」等を充実する上から、幼稚園と小学校との間での連携（以下「幼・小の連携」または「幼・小連携」と呼ぶ）を図るようにすることが必要である、とされた。

これを受けて、今回改訂の幼稚園教育要領には初めて小学校学習指導要領が、小学校学習指導要領には初めて幼稚園教育要領が互いに掲載されるとともに、その中に、幼稚園教育と小学校教育との間で円滑な移行や接続を図る観点から、小学校の低学年教育では、幼稚園教育における各領域の内容などとの関連を考慮したり、幼児と児童の交流の機会を設けたり、双方の教諭が意見交換や合同の研究機会を設けたりするなど、両者が連携を図るようにすることが求められた。

もはや、幼稚園と小学校との間では緊密な連携を積み重ねて、子どもたちの連続的で円滑な実りある学びや育ちを保障することが、現代教育の必須で緊要の課題と考えられる。

そこで、本研究では、本園が「幼・小連携の第一歩」として学区の小学校と取り組んできた「教諭および子どもたちの相互訪問・交流」の様子を紹介するとともに、これらを通して何が得られ、今後何が必要かを明らかにすることを目的とする。

２　本研究の方法

（１）研究推進の基本方針

本園では、以前より「幼稚園・保育園と小学校との連絡懇談会の開催」「園児の小学校訪問・交流」「園長・教諭による小学校行事の見学」などを行ってきた。

平成 22 年度は教諭交流のひとつとして「小学校オープンデーの参加」「園での公開保育の見学」を通して、「子どもの姿・指導方法・指導姿勢などを互いに知る」ということを取り入れた。

① 子どもや教諭が互いの行事（運動会・発表会・作品展など）に参加する。
② 小学校の「園児とのふれあい会」に本園の園児も参加する。
③ 双方の教諭が就学前に懇談をもち、互いの教育方法や教育内容、子どもの育ち等について情報交換する。

（２）研究の日時および取り組み内容

① 本園園長・教諭による大野木小学校オープンデーでの授業参観

日　時　　：22 年 6 月 18 日（金）
対象授業　：1〜6 年の各教科授業
2 時限　　9:45〜10:30
3 時限　　10:45〜11:30
授業参観者：園長・年長学年主任

② 大野木小学校校長・教諭による国風第三幼稚園での公開保育の参観

日　時　　：22 年 6 月 15 日（月）10:00～11:30

対象保育　　：年長青組の保育

保育参観者 ：校長・教務主任

③ 幼稚園・保育園と小学校との連絡懇談会の開催

実施期間

第 1 回目　6～9 月までの期間

※　山田東中学校ブロックでは、9～10 月に開催（21 年度は 10 月 5 日(月)に実施）

第 2 回目　11～2 月までの期間

※　就学児健康診断終了後から卒園までに各小学校、各幼稚園ごとに行う

昨年度の例を挙げると以下の通りである。

大野木小	3 月　2 日（45 人）	話し合い（主任）	15：30～16：30
山田小	2 月 24 日（44 人）	話し合い（主任）	15：30～16：30
	2 月 25 日	保育見学（主任・教育相談員）	11：00～12：00
比良西小	2 月 26 日（14 人）	保育見学・話し合い（主任）	10：30～12：00

中小田井小（12 人）、比良小（9 人）、平田小（3 人）は該当児が少人数のため電話で話し合う。

引っ越しのため他県の学校への就学予定者についても、電話にて懇談。（3 人）

なお、以前から名古屋市では、上記のような幼稚園・保育園と小学校との連絡懇談会が各中学校区ごとに行われている。

④ 大野木小学校との交流会の開催

幼保小連絡懇談会の折に、大野木小学校（学区）の教務主任の教諭と交流、連携について相談、提案する。後日小学校から、学区内にある私立保育園と国風第三幼稚園と 1 年交代で交流会をしませんかと提案される。交流において、いくつかの成果を得られたので、平成 19 年度からは何らかの形で、毎年交流会を行うことにした。

これまでの例を挙げると以下の通りである。

平成 17 年度	平成 18 年 1 月 20 日
平成 18 年度	行わず
平成 19 年度	平成 20 年 2 月　4 日
平成 20 年度	平成 21 年 2 月　2 日
平成 21 年度	平成 22 年 2 月　3 日

3　本研究（各取組み内容）の実践経過とその考察

（1）**事例 1**　大野木小学校主催『園児とのふれあい会』に参加（その 1）

日　時：平成 21 年 2 月 2 日（月）3 限目 10：45～11：15

ねらい：小学校の施設・設備や子どもたちの生活を見学することで、小学校への不安感をなくし、希望をもって入学する気持ちをもつ。

内　容：本園の子どもたちが小学校の施設・設備・授業の様子を知る。

※　以下、いずれの事例についても、本園園児（年長児）は便宜上「子ども」と記載、小学校児童は「小学生」と記載した。

（各学年の教室見学）
本園教諭　「小学生になると、自分の机があるんだね」
子ども　　「幼稚園の机より大きい(高い)！！」
　　「机の中にいろいろ入ってるね」
本園教諭　「ロッカーの中には何が入ってるかな？」
子ども　　「赤いランドセルだ！」
　　「お道具箱みたいな物もあるね」

＜考察＞
幼稚園には無いものに憧れの気持ちを抱くとともに、道具箱のように知っている物もあるのだという安心した気持も見受けられた。中には、小学生の道具箱には何が入っているのか、気になって覗き込んでいた子どもも何人かいた。

（4年3組の教室の壁に掲示してある習字を見て）
子ども　　「みんな同じ字が書いてあるね」
　　「字のお勉強だからだよ」
本園教諭　「あれは何を使って書いたか分かる？」
子ども　　「知ってる！墨でしょ？」
　　墨を使って観察画を描いた経験を思い出す。
　　「え？バッタ描いたときに使ったやつ？」
本園教諭　「そうだね、みんながお絵かきした墨と一緒だよ」

＜考察＞
自分も使ったことのある墨を、小学校では字を書くことに使うことを知り、驚くと同時に、たくさんの字が書いてあるのを見て、「早くやってみたいな」と関心をもつ子がいる一方で、「難しそう」と不安に思う子もいた。

（6年1組の「百人一首」の授業を見学）
子ども　　「あ！カルタやってる！」
本園教諭　「そうだね、カルタに似ているけど、あれは百人一首って言うんだよ」
　　カードを一枚見せてもらう
子ども　　「あれ？字だけしか書いてないね」
　　「小学生だから、(カルタのように)絵じゃなくて、字のカルタみたいだね」
　　「すごいね！」

＜考察＞
自分の経験(カルタ)と重ね、楽しそう・やってみたいという思いと、やっぱり小学生はすごい・小学校は字を使って勉強をするところだよ、という実感が交錯しているようだった。

（5年2組の「音楽」の授業を見学）
合奏の発表に向け、パート練習を行っている。
子ども　　「太鼓があるね」「シンバルもあるよ」
　　知っている楽器を見つけ、楽しむ。
本園教諭　「見たことのない楽器もあるね」
子ども　　「お兄さんお姉さんは大きいから、楽器も大きいね」
小学校教諭「幼稚園の子が来てくれたから、聞かせてあげようか！できる？」
小学生　　「できるよ」
小学校教諭「じゃあ、準備してください」

小学生　　自分たちで楽器を並べ、演奏の準備をする。
　～　演　奏　～
子ども　　体を揺らしたり拍子をとったりし楽しむ。
　　演奏後、自然と拍手をする。

＜考察＞
　自分が使ったり見たりしたことのある楽器がたくさんあり、親しみをもって見学していた。
どの子も目を輝かせ聞き入る姿を見て、音楽は幼・小の区別無く、誰でも楽しめるものなのだと改めて感じた。それゆえ、いつも何らかの形で音楽を取り入れて幼・小の交流を図ると、打ち解けやすいのではないかと考えた。

（２）**事例２**　大野木小学校主催『園児とのふれあい会』に参加（その２）

日　時：平成 22 年 2 月 3 日（水）3 限目 10：45～11：30
幼稚園側のねらい：小学校生活を見学することで、不安感をなくし希望をもって入学する気持ちをもつ。
内　容：授業の様子を知る。
小学校の施設・設備を知る。
小学生とゲームをしたりうたったりし、交流を図る。
小学校側のねらい：小学校生活の様子を１年生との交流会によって知ることで、不安感をなくし希望をもって入学する気持ちをもつ。
１年生や小学校の教諭に幼稚園で学んだことを発表することで、次年度一緒に学校生活を送る気持ちを高める。
内　容：互いに理解を深めるために、ゲームやクイズ・歌をうたって楽しく過ごす。
大野木小学校の１年生が新１年生になる幼稚園児に学校生活の様子を知らせる。（裏表紙の写真参照）

（学校行事の紹介ビデオを見る）
子ども　　「知ってる」「見たことある」と、小学校に姉兄がいる子を中心に、会話が盛り上がる。
　　小学校の校庭を借りて本園の運動会を行っているので、「ここ行ったことある」「運動会したよね」と、思い出している様子。

『○×クイズ』　　司会進行：小学生（1 年）
　上映したビデオを基に、小学生が学校についてのクイズを出し、園児は手で○×をつくって答える。
　幼稚園の子が小学校に期待がもてるよう、簡単で分かりやすい問題になっていた。
　　例・・・　●給食はおかわりをしてもよい…○
　　●廊下は走っても良い…×
　　●友だちとけんかをしても良い…×
子ども　　「お兄さん（小学生）がルールを話すんだね」「自分たちで問題を考えたのかなぁ」等と話し、憧れの眼差しで見ていた。
　　どの子もクイズに正解すると、小学生が拍手をしてくれ、飛び跳ねて喜んでいた。

『ゲーム　じゃんけん列車』　司会進行：小学生（１年）

＜最初に、小学生がルールの説明をするA男くん(園児)「じゃんけん列車やったことあるから、わかるよね」
B子さん(園児)「でも、小学校のやり方は違うかもしれないよ」
この後、ルールの説明を静かに聞く
小学校教諭　「一年生の皆さんは幼稚園の子と、幼稚園の子は小学校のお兄さんお姉さんを探してじゃんけんしましょうね」
＜ゲームスタート＞
小学生が優しく手を差し伸べる・園児から積極的に声を掛ける・じゃんけんに負けても列が長くなっていくことを喜ぶ・園児が小学校教諭に声を掛ける、などの姿が見られた。

＜考察＞

幼稚園でも遊んだことがあるゲームだったのでルールは知っているが、小学生がルール説明をすることで新鮮に感じ、真剣に聞いていた。「恥ずかしい気持ちが強く、じゃんけんの相手(小学生)を探せず幼稚園児同士じゃんけんをするのでは…」と想定していたが、どの子も小学生を相手に積極的に参加していた。知っているあそびだったということと、小学生のルール説明を聞き親近感が湧いたことで、すんなりとあそびに参加できたのではないかと考える。

C 男くんのように「活発であそびを仕切るタイプの子が小学生の指示に従い後ろをついて行く」D子さんのように「ゲームをして自分が負けるとすぐに拗ねてしまう子が、じゃんけんに負けても楽しそうに列に加わる」というように、幼稚園では見られない姿がたくさん見られた。同じ年齢の子同士だと「ライバル意識」をもつためか、勝ち負けにこだわりけんかになることもあるが、この日は「お兄さんお姉さんとみんなで遊ぶ」ということを、思い切り楽しむことができたように思う。

（3）**事例３**　小学校の校長・教諭による『幼稚園公開保育』の参観

日　時　　：平成22年6月15日（月）　年長 青1組
保育参観者　：校長、教務主任

○前日　子どもとの話し合い
本園教諭　「月曜日に小学校の先生が、青1組のお友だちはどんなことをしているのかな～って、見にみえるよ」
子ども　「え～!?どこの小学校？」
本園教諭　「大野木小学校だよ」
子ども　「知ってる」「私の行く学校だよ」「山田小学校は来ないの？」「小学校に行くの？」
（秋の運動会を大野木小学校で行うので、みんな行ったことがあるため嬉しそうに発言する。自分が行く小学校を知っている子は、その学校を主張する。）
本園教諭　「みんなが行くのはまた今度。その時は大野木小学校に行くよ！楽しみだね。月曜日は、小学校の先生が見にみえるよ」

○公開保育参観当日
カードあそびを楽しむ姿を見ていただいた。　※資料1（公開保育日案）参照

＜公開保育終了後の子どもたち＞
「先生、私はどこの小学校へ行くの？」と、小学校に関心が向き尋ねる子がいた。降園時のバスの中でも尋ねる子がいたので、住んでいる学区があるので「お家でママに聞いてみたら？」と伝えた。家庭で今日の公開保育の話をして、小学校について話し合い自分の通う小学校の場所などを知ることができ、翌日担任に報告してくれた。

＜小学校教諭との意見交換（園長・年長組担任・校長・教務主任）＞

・幼稚園の時期に文字・数の概念を楽しくあそびに取り入れている。（小学校教諭）

・小学校でもゲームを取り入れる時もあるが、ゲームで育つこと・学ぶことが年齢によって違う。（小学校教諭）

・友だち同士話し合ったり、誘いあったりする姿があり、本日のねらいにある「友だちとのかかわり」がよくできている。約束を守ることもできている。小学校でも、卒園児の子が他園から入学した友だちを積極的に誘い、活動の仕方を教えてあげて、かかわる姿が多々ある。（小学校教諭）

・幼稚園での文字・数の取り組み方を尋ねられたので、年中で取り組む「せんあそび」年長で取り組む「ひらがなとかず」のワークを見ていただいた。（幼稚園教諭）

＜考察＞

年長に進級してまだ日が浅い子どもたちだが、「次は小学生なんだ」という意識があり、小学校の先生が来ることにとても期待をする姿から、子どもたちの小学校に対する気持ちが大きいことが分かった。

年長児の姿を見ていただき、１年生の姿を納得してもらえ、幼稚園での取り組みに関心をもってもらえた。

今回、幼稚園の公開保育を行ったことで他の小学校からも公開保育の希望があり、今後計画をすることにした。幼・小連携を幼稚園から働き掛けることによって、小学校からの反応を得ることができ、今後の交流に進歩が期待できた。

（４）**事例４**　『小学校オープンデー見学』への参加

日　時　：平成 22 年 6 月 18 日（金）

参観授業　：１～６年　２限目　　9：45～10：30

３限目　　10：45～11：30

授業参観者：園長、年長学年主任　　※資料２（オープンデーのご案内）参照

２限目　１年３組《算数》

園長や主任の姿を見つけるとみんな嬉しそうに声を掛けたり手を振ったりする。

T 男くん　幼稚園では、教諭の言葉ひとつひとつに反応して喋りかけていたが、小学校に入学してからは、教諭の質問に手を挙げて答えようとしていた。手を挙げない友だちには「手を挙げて言うんだよ」と指摘をし、自分の席にきちんと座っていたので、落ち着いて見えた。

左右が正しく分からないのか、教諭の指示で机上のブロックを右に寄せるのを左にする。机上に、教科書・ノート・筆箱・ブロックが散乱して置かれて、消しゴム・鉛筆が床に転がっていても気付かないままである。

本園の卒園児は、どの子も元気よく手を挙げあてられると張り切って答えていた。

M 男くん　「３です」

Y 子さん　「アーモンドチョコレートです」

Y 男くん　前に出て黒板のブロックを正しく動かす。

R 男くん　全く手を挙げない。

ノートに数字を書き入れる際、間違っていないか担任に確認する。

（自分のことは担任に伝えることができる様子に、安心した）

初めて手を挙げると担任にあててもらい、「2 です」と正しく答えることができた。

＜考察＞

１年生の姿に一番興味があった。子どもたちは幼稚園の時の様子と比べ、教諭の話を聞いてから手を挙げて発言するということが身についていることに感激した。卒園児が積極的に発言をする姿を見て、たくましく思った。

慣れることに時間がかかり、自分の思いを伝えることに自信がもてないＲ男くんが、就学して間もないこの時期に、教諭に自分から話したり手を挙げて発言したりする姿を見て安心した。本園卒園児、とりわけ就学に当たり気になっていた子の成長している姿を見ることができて良かった。また、授業の様子を見て、就学までに「話を聞く姿勢など育てていく」という課題を見付けることができた。

３限目、全クラスを順に見て回ると、５・６年生の教室でも主任の姿を見つけると、嬉しそうに手を振ったり母親に教えたりする。「幼稚園の先生が来た」と口々に言いクラスの子がみんな後ろを振り向く姿を見て、幼稚園の事を覚えていてくれていることを嬉しく思った。

（５）**事例５**　『ホタル観賞会』への参加　（幼稚園教諭及び親子での参加）

日　時：平成.22 年 6 月 23 日（水）　　19：30～20：30

場　所：大野木小学校フレンドリーランド　　※資料 3（ホタル鑑賞会のお知らせ）参照

19：20 校庭に到着。

小学生はもちろん、おじいちゃんおばあちゃん・未就学児の弟妹等、100 人以上並んでいる。待ち時間を利用して、3 台の顕微鏡で「ホタルの赤ちゃん」を見学する場が設けられていた。

ホタルのテントに入る前に約 20 人 1ｸﾞﾙｰﾌﾟになり、小学校教諭より「ホタルについて」「見学に際しての注意事項」を聞く。

ビニールシートで囲った散策通路の中（約 50m）を、ゆっくりと歩きながら見学する。

子ども　（初めてホタルを見る）

「すごい！本当に光ってる」「飛んでる時も光ってるね」

「もっといっぱいいたら、もっともっときれいだね」

～見学終了の合図～

子ども　「ずっと見ていたいのに、もう終わり？」

再度並び、何度も見学する小学生もいた。

＜考察＞

参加者多数のため、見学時間が短く（１分程）光っているホタルが少ししかいなかったので、楽しめていたか心配だったが、初めて見るホタルに子どもたちは大喜びだった。幼稚園と小学校の連携を通して、幼稚園生活ではできない体験をすることができた。

（６）**事例６**　『平成 21 年度　名古屋市幼児教育連絡懇談会　山田東中学校ブロック　幼・保・小懇談会』への参加

日　時：平成 21 年 10 月 5 日（月）　15：00～17：00

会　場：国風第三幼稚園

内　容：以下の次第で進行。

１．担当園（国風第三幼稚園）　挨拶

２．出席者数ならびに自己紹介

比良西　幼稚園	２名	大野木小学校	２名
比　良　幼稚園	２名	比良西小学校	３名
国風第三幼稚園	６名	比　良小学校	２名
比良西　保育園	２名		

３．懇談会（当日の記録を以下に示す）

《小学校１年生の学校生活及び教育内容と成果》

〇大野木小学校

・特別大きな問題はなく過ごせている。

・１学期、五感を大切にした活動を生活科で行ってきた。

〇比良西小学校

・とても活発、元気いっぱい。４，５月が過ぎ落ち着いてきた。

・全体の場でもきちんと話を聞くことが今の課題。

〇比良小学校

・1学期が終わり小学生らしくなってきた。自分でいろいろなことができるようになってきた。

・人の話を聞く、自分の気持ちを伝える、ということを大切に指導してきた。

・帰りの会の時、日直がスピーチすることなど、ずいぶん話すことに慣れてきたが、聞く姿勢がまだ身についていないので、これから気をつけていきたい。

・給食を食べ終えることに、とても時間がかかることが気になる。

《幼稚園・保育園の教育内容と成果》

〇比良西幼稚園

・友だちの話を聞く、相手に思いを伝えることを大切にしてきた。

・運動会を終え自分の力を発揮することの楽しさを感じている。

〇比良幼稚園

・５名１クラス、少人数なので一対一でしっかりとかかわる。

・他園との交流を通して、多くの人とかかわわる機会をたくさんつくるようにしている。

・就学にあたり、学校生活を多人数で過ごすということに円滑に馴染んでいけるか心配。

・園で育てた野菜を給食に取り入れるなど食育にも力を入れている。

・親同士、悩みを相談したり助け合ったりする様子が見られる。

〇国風第三幼稚園

・基本的生活習慣の確立を目指している。今年度は特に挨拶。

・生き物を飼育することで命の大切さを伝えている。

・年間の様々な行事を通し豊かな感性・創造性を育てる。

・今年度の研究テーマ「きまりを守ること」の意味や大切さを伝えている。

〇比良西保育園

・年長児は元気いっぱいで、少し活発過ぎるところがある。

・人間関係を重視している。トラブルがあった場合、当事者だけでなくクラス全体で話すことにしている。

《要望・意見・質問など》

〇幼稚園・保育園から小学校

・小学校との交流を通し、子どもに対しての共通理解を深めることができた。

・一年生はまだまだできないことが多いと思われがちだが、園での最年長児としての頑張りを認め、自信を失わせないような配慮をお願いしたい。

・自分の思いがすぐに伝えられない子など、特に配慮の必要な子に対しての手助けをお願いしたい。また、そのような子の保護者への対応も気にかけて欲しい。

○小学校から幼稚園・保育園
・園からの情報（保護者のこと・子どものこと）を知ることで、それに合った教育方針やクラス編成ができ、いい結果を得ることができている。これからも続けて欲しい。
・文字の読み書きの進度について教えて欲しい。
・交通事故が多いので園でも交通安全について、また自分の命の大切さについて知らせて欲しい。
・卒園児の保護者から学校についての相談があったら教えて欲しい。
・生活面のことを園で、しっかり行っておいてくれると助かる。
・特別、気になる子だけでなく普段の保育を見ることでいろいろなことが分かって良い。
○気になる子について
・園や学校での様子は、ありのままの姿を伝えることが大切。ただし、上手に伝えないと次の段階へ行くことができない。保護者に「子どもにとって一番良い選択技」だということが伝わると良い。すぐにそういった施設に行くように、と言うと保護者も受け入れにくくなるので、悩みがあれば学校に相談するという手段を知らせる。園や学校と協力して一緒に頑張っていこうということを伝えることが大切である。

＜考察＞
幼稚園での様子を小学校側に伝えることで、個々の性格や人間関係を入学前に把握し配慮することができ、幼・小間の円滑な接続につながっていく。
また、お互いに対する要望・意見をこの場限りのものにせず、今後どのような取り組みをしていくとよいかを考え、それらを話し合う機会が設けられると、次につながっていくと思う。

（７）その後の各小学校との連携の様子
① 後日、各小学校と園で個別に話し合う。
現在就園中のいわゆる「気になる子」について、具体的に小学校の教諭に伝えるなどしたゆえ、その都度、小学校側からその子の園での姿を見に来てもらうなどしてきた。また、小学校側で就学後の児童の対応に苦慮されると、園での教諭の接し方を見に来ていただいたり、問題の解決の仕方などを相談しに来ていただいたりしてきた。
② 就学してから「学校に行きたがらない」と幼稚園に母親が相談に来る。『小学校は何もしてくれない、小学校は幼稚園のようには対応してくれない』という母親の気持ちを受け止め「小学校にも相談をすると良い」と助言をすると小学校に働き掛けることができた。落ち着くまで母親と一緒に登校をすることになった。

４　今後の課題

（１）幼・小の連携は以前から必要とされてきたが、今また、新しくて必須、緊要の課題となっている。それゆえ、まず大前提として、両者間での連携をこれまで以上に密にして、子ども一人ひとりの園生活を一層充実するとともに、彼らの連続的な学びや育ちが小学校へ円滑に受け継がれていくようにしたい。

（２）今回の幼・小連携の取り組みを通して、前述してきたような成果が明らかになってきたが、以下のような問題・課題も浮かび上がってきている。
① それぞれに授業・保育があるため、特定の教諭（校長・教務主任・園長・学年主任）しか互いの子どもの姿を見ることができない。
② 子ども同士の交流会をよりよくするための事前の取り組みが、必ずしも十分に行われているとは言えない。
③ 小学校教諭と幼稚園教諭の交流の機会がない。

これらの今後の解決策として、
①については、一年生の担任が年長児の保育参観を、また年長児の担任が１年生の授業参観を通して、互いの子どもの姿を見合う環境を、事前（できれば、前年度の内に）に双方でよく相談し合って、計画的に実施する。
②については、それぞれの交流会毎に双方の教諭同士が事前に意見交換をして、互いの目当てや交流方法等を十分に話し合う場を設ける。
③については、子どもの発達や学びの連続性など、幼児期後期から児童期前期に連なる子どもの様子を具体の姿で理解するために、共に研修する機会を設ける。
等々に努めることが大切であると考えられる。

（３）幼・小連携の今後の一層の充実策として、更に以下のような取り組みが考えられる。
① 交流会を一過性のイベントで終わらせないために、事前に教諭同士が十分に意見交換をし合い、小学校側のめあて・幼稚園側のめあてを相互に理解し合い、継続的で互恵的、発展的に達成されるようにすること。また、それぞれの交流会毎に、各教師や子ども自身による自己評価、相互評価を積み重ねていくこと。
② 幼･小懇談の取り組みが､次年度の年長組の保育や１年生の授業に活かされるようにすること。それには､幼稚園年長組や小学校１年生の担任だけでなく､幼稚園内･小学校内で全教諭が幼・小連携において共通理解をすること。
③ 幼稚園から小学校への接続期に円滑な移行を図るために､｢互いの教育の独自性や良さ･大切さ｣､例えば「生活・遊びによる幼稚園教育」、そして「各教科の目標や内容の系統性を大切にする小学校教育」、さらには「子どもが楽しく意欲的に学べる授業・保育づくり・学級づくり」等について、日頃から幼・小の教諭が一緒に学び合い、共通理解し合うとともに、それぞれに生かせることは取り入れ合い、互いの指導力を向上し合う機会を設けること。

等々、多々あろう。

しかし、ややもすると幼稚園と小学校では「幼・小連携」に対する見解が異なりがちになる（例えば、幼稚園では就学に向けての取り組みのみに、また、小学校では生活科の一環としての取り組みのみになりがちになる）ことがある。幼・小の連携には、その他にも、子どもたちの発達や学びの連続性を理解し、具現化するための授業・保育カンファレンスの開催、幼稚園から小学校への円滑な接続を考えたアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの作成と実施、幼稚園年長児と小学校中・高学年等との縦割り共同作業（例えば、合同遠足や野菜栽培等）、保護者や地域の方々の協力も加えての安全・安心・触れ合いの園づくり・学校づくり、更には、教育行政の理解や協力、支援体制も得ながらの双方の教諭の相互派遣による一定期間の研修等々、実に多様な課題がある。

一気にこれらのすべてを満たそうと思うのは、到底高望みというものであろう。まずは両者の間で、これまでの成果と課題を確認するとともに、幼・小連携の必要性や意義についての共通理解をこれまで以上に深め、一歩一歩足場を固めながら、連携の幅と実績を少しずつ広げ深めていくことが重要であると考えている。要は、この時期の子どもたちの学びや育ちを如何に円滑、充実、意義あるものにしてやるかである。まずは、そのためにも両校園でできることを、少しでも多く探し、取り組みたい。

以上のことから、本年度末から来年度にかけては、本園と大野木小学校との間で今までよりもう一歩進んだ取り組みができるよう、連携の内容を両者で相談・検討中である。

また、大野木小学校を介して他校からも交流の申し込みがあったので、それについても、実りあるものにするよう、今から種々検討していきたい、と考えている。

本分科会にご参加の先生方からも貴重なご意見・ご助言をいただき、この実践研究をさらに充実させていきたいと考えております。よろしくお願いします。

資 料 1

6月15日（水） 10:00～11:00　　森 有希子

5歳児 青1組 男15名（広汎性発達障害児1名含む）女16名（自閉症児1名含む） 計31名

ねらい：ゲームを通してクラスの友だちとのかかわりを広げる。
　　みんなで楽しむための約束を知り守る。

時間	子どもの活動	予想される子どもの姿	教師の援助 ●ねらい
9:30	・片づけ、手洗い、うがい、排泄、水分補給を済ませる。	・気の合う友だちとかかわり近くに座る。	・準備ができた子に3番バスの子と活動中の子を待つように促す。
10:00	・出席、人数報告 ・おはじまり 朝の挨拶 おはようのうた ねね 日付・お天気調べ 発声練習 歌「てのひらを太陽に」 ﾋﾟｱﾆｶ「たなばたさま」 当番紹介	・手をさっと挙げてすぐ下ろす真っすぐはっきり手を挙げる子がいる。 ・張り切って怒鳴り声になる子きれいな声でうたおうとする子がいる。 ・いつもと違う雰囲気に緊張している子がいる。 ・ﾋﾟｱﾉの音に合わせて発声できない子がいる。	・クラスの皆に分かるように手を挙げることを確認する。 ・友だちの返事を確認するように声を掛ける。 ・歌詞を考えてうたうように気付かせる。 ・ﾋﾟｱﾉの音を確認してから声を出せるようにﾋﾟｱﾉを弾く。 ・できていたら褒めていく。
10:25	・排泄、水分補給		・座ってお茶を飲むことを確認する。
10:30	○仲間で集合ゲーム ・ｶｰﾄﾞの絵を確認する。 ・ｹﾞｰﾑの方法を知る。 ・同じ仲間のｶｰﾄﾞを持っている子を探し見つけたらｸﾞﾙｰﾌﾟになる。	・ｶｰﾄﾞを見て意見を言う。 ・ｹﾞｰﾑの内容を聞き発言する子がいる。 ・同じ仲間のｶｰﾄﾞを持っている子を探せない子がいる。 ・競い合って楽しむ。	●さまざまな物が仲間分けできることを知る。 ●友だちとかかわる。 ・ｹﾞｰﾑに参加することに期待できるように声を掛ける。 ・子どもの表現を認めながらそれらを表す仲間のｶｰﾄﾞを知らせる。 ・全員が理解できるように確認してｹﾞｰﾑの約束などを説明していく。
10:45	○ことば作りｹﾞｰﾑ ・友だちと話し合う。 ・4つのひらがなを組み合わせことばをつくる。 ・発表をする。	・自信をもって発表する子、どうしていいか分からない子がいる。 ・小さな声で発表する子がいる。	●文字を入れ替えてことばをつくることを友だちと楽しむ。 ・どうしたらよいか戸惑う子、話し合いが進められない子にはｸﾞﾙｰﾌﾟに助言したりﾋﾝﾄを与えたりする。 ・できたことを一緒に喜ぶ。 ・発表できたことを認めていく。
10:55	○今日の活動について話し合う。	・楽しかったこと、達成できたことについて話しをする子がいる。 ・またやりたいと言う子がいる。 ・違うやり方もやってみたいと言う子がいる。	・ｸﾗｽの友だち一人ひとりに仲間意識がもてるようにする。 ・今日の活動について子どもたちから意見をひきだし次の活動に期待を膨らませていく。

・仲間ｶｰﾄﾞ
動物・・・パンダ、キリン、コアラ、ウサギ
野菜・・・たまねぎ、たけのこ、ニンジン、なす
果物・・・りんご、ﾊﾞﾅﾅ、ぶどう、さくらんぼ
乗り物・・車、飛行機、電車、ﾊﾞｽ
昆虫・・・とんぼ、てんとう虫、かぶとむし、ちょうちょう
食べ物・・・スパゲッティ、チキン、カレー、ハンバーグ
おやつ・・プリン、かき氷、おかし、ケーキ
花・・・・・さくら、ﾁｭｰﾘｯﾌﾟ、朝顔、ひまわり
※カードを裏返しにし１枚ずつカードを取り同じ仲間で集まりｸﾞﾙｰﾌﾟになる。

・ことば作りｶｰﾄﾞ
くつした、だいこん、はんかち、らいおん、しまうま、えんぴつ、おりがみ、くれぱす、あそびぎ、おてんきのことばがつくれるｶｰﾄﾞ（ｶｰﾄﾞ１枚にひらがなを１つ書いたもの）
※仲間ｶｰﾄﾞで分かれたｸﾞﾙｰﾌﾟに４枚のことば作りｶｰﾄﾞを渡し、ｸﾞﾙｰﾌﾟでどんなことばになるか相談してできたことばを発表する。

資料２

平成２２年6月１５日

保護者　様（世帯配布）

名古屋市立大野木小学校長　吉田　厚司

第１回オープンデーのご案内

過日お知らせしました通り，“第１回オープンデー”を以下の表のように実施します。ご都合のつく時間で結構ですので，子どもたちの様子をご覧いただきますようお願い申しあげます。

日　　程　６月１８日（金）第２時限～第３時限

参観時間帯　・第２時限　９：４５～１０：３０　・大放課　１０：３０～１０：４５
・第３時限　１０：４５～１１：３０

☆各学級の当日の授業内容と授業の場所☆　※活動場所は，特に指定のない場合は各教室

学年・組	第2時限の教科	第3時限の教科	備　　考
１－１	算数 のこりはいくつ　ちがいはいくつ	体育…体育館 ころがしあてっこ	
１－２	国語 ぶんをつくってみましょう	算数 のこりはいくつ　ちがいはいくつ	
１－３	算数 のこりはいくつ　ちがいはいくつ	図工 かさねてチョッキン	
１－４	英語（植田先生）…多目的室 英語活動	国語 ぶんをつくってみましょう	
あおぞら	算数 1000までの数	音楽…２－２教室（交流） わくわくリズム　なかよしドレミ	
２－１	国語 じゅんじょに気をつけて読もう	音楽 わくわくリズム　なかよしドレミ	
２－２	国語 かたかなで書くことば	音楽…（あおぞらと交流） わくわくリズム　なかよしドレミ	
２－３	算数 計算のしかたをかんがえよう	音楽 わくわくリズム　なかよしドレミ	
２－４	国語 じゅんじょに気をつけて読もう	英語（植田先生）…多目的室 英語活動	
３－１	社会 市のようす	体育…プール うく・泳ぐ運動	３時間目…中止時 算数：ひき算の筆算…教室 学習室
３－２	社会 市のようす	体育…プール うく・泳ぐ運動	３時間目…中止時 国語：国語じてんの引き方
３－３	理科 こん虫をしらべよう	体育…プール うく・泳ぐ運動	３時間目…中止時 社会：市のようす
４－１	体育…プール うく・泳ぐ運動	国語 花を見つける手がかり	２時間目…中止時 算数：垂直・平行と四角形
４－２	体育…プール うく・泳ぐ運動	音楽（水谷先生）…音楽室 ふしとリズム	２時間目…中止時 国語：花を見つける手がかり
４－３	体育…プール うく・泳ぐ運動	書写（小林先生） 筆使いの学習	２時間目…中止時 社会：ごみと住みよいくらし
５－１	算数 三角形・四角形の角	家庭 見つめよう！家庭生活	
５－２	算数 三角形・四角形の角	英語（石川先生） 外国語活動	
５－３	英語（石川先生） 外国語活動	社会 水産業のさかんな枕崎市	
６－１	総合 名古屋の歴史を探ろう	書写（伊藤先生） 文字の組み立て方	
６－２	総合 名古屋の歴史を探ろう	家庭…家庭科室 つくろう！さわやか生活	
６－３	音楽（水谷先生）…音楽室 曲の特ちょうを生かして	総合 名古屋の歴史を探ろう	

資料３

ホタル鑑賞会のお知らせ

～大野木小学校～

○ 日 時　　平成22年 6月23日（水）・24日（木）

午後7時半ごろから8時半ごろ（少雨決行）

○ 会 場　　大野木小学校フレンドリーランド（テント付近）

【お願い】

・ 図工室前で、順に２列で整列してください。

順路は、西門→図工室前→図工室（鑑賞券受け取り）→テント入口（鑑賞券渡し）→テント内（ホタル鑑賞）→テント出口→南門

・ ホタルは、暗く静かな場所で光る生物です。そのためホタルのいるテント内は、大変暗くなります。また、ホタルは、音にびっくりすると光るのをやめてしまいます。安全に気を付け、ゆっくりと静かに歩きましょう。

・ 危険防止のためテント内へのご案内は，10名程度とさせていただき、数分で入れ替えをいたします。

・ 鑑賞者の人数によっては待ち時間が長くなります。

・ 多くの方が鑑賞できるよう、ご協力をよろしくお願いいたします。